

野田市の「虐待死亡事件」についての緊急申入れ

流山市 井崎義治 様

2019年2月5日

日本共産党流山市議団

本市に隣接した野田市の小学4年女児が死亡した「虐待事件」は、市民に衝撃を与え、大きな悲しみと憤りをよぶとともに、この事件をめぐる行政の対応に対する強い不信感を抱かせている。父親から受けていた「いじめ」「暴力」からの助けを求めていた少女の命がなぜ救えなかったのか、県をはじめとする関係機関がそれぞれ検証を深めるとともに、本市内でも児童虐待の事例が過去あること、そもそも子どもは生まれる親や家庭を選択できないことから、このような事件を二度と繰り返させないための対策を講じることは必要不可欠である。

極めて重大なのは、児童相談所が関わった事案でありながらまたもや子どもの命が奪われたことである。行政の責任はとりわけ厳しく問われていると言わなければならない。

同時に、現在の報道から、第一に、一時保護解除の判断が適切だったのかという、事態の重大性、緊急性に関わる認識の有無、第二に、一時保護解除後、なぜ児相も学校も一度も家庭を訪問しなかったのか、対応が学校まかせになっていたのではないか、という不信、第三に、野田市の要保護児童対策地域協議会、警察など関係機関との連携、情報共有がどう確立されていたのかなど千葉県や野田市だけにとどめず、本市としても事案の研究や担当課の取り組み、関係機関との情報共有などできるところから着手すべきである。

記

1. 「虐待から命を守る」という確固とした姿勢を確立し、行政内部の研修はもちろんのこと、現在の虐待対応マニュアルを関係機関で再確認すること。
2. 関係機関による虐待に関する情報共有、連携の改善を図ること。
3. 現在進めている児童相談所の職員増員の前倒しなど抜本的な人員体制の拡充と、職員研修の充実を県に求めること。また、本市職員体制も含め児童虐待の相談サポート体制を充実させること。

以上。